

1. 教員養成の理念・目的と計画、建学の精神

建学の精神「人間教育と実学」のもと、「地域に学び、人と結び、人を支え、世界にはばたく」人材育成と教員養成

(1) 「人間教育と実学」を基軸にした現代的な課題・専門性を学べる総合大学

本学は建学の精神「人間教育と実学」のもと、管理栄養学部・メディア造形学部・ヒューマンケア学部・看護学部（4学部6学科、3研究科、1研究所）を擁し、「知と美と健康、看護の創造」を基本理念に食と健康、人間の幸福に寄与する創造・表現や造型の在り方、人生100年時代における心身、看護・医療等の先進的・現代的課題を多方面、多角度から学修、探究、考察することのできる新しいタイプの総合大学です。

(2) 教員養成と「地域に学び、人と結び、人を支え、世界にはばたく」人材育成

現代的な諸課題を探究、提案するとともに「地域に学び、人と結び、人を支え、世界にはばたく」人材育成（杉浦康夫学長）の一環として、大学における教員養成もまた重要な意義を有しています。

本学は開学以来、養護教諭、保育士・幼稚園教諭等を中心として教員養成を行い愛知県・名古屋市に留まらず全国的に有意な人材を育成してきています。また、養護教諭、保育士・幼稚園教諭だけでなく、子どもたちの食育と健康等にも深くかかわる栄養教諭、幼児教育からの連続性・系統性を踏まえた小学校教諭の志望者が増加し、多くの学生が愛知県・名古屋市はじめ関東、関西等に就職はじめています。

(3) アカデミックな研究を基盤にした教育的コミュニケーション能力、実践的教育力

教員になるための資質・能力は教養科目、各学部・学科の高度な専門教育を通じて身につけた知識・技能と活用・探究能力、課題解決能力、学術的研究能力等が前提になっています。

これからの教員に、これらと並行し求められる資質・能力は、人間的・教育的なコミュニケーション能力の高さ、子どもたちの発達と学びの在り方にあたたかく寄り添うことができる人間性、さらに個々をいかす学級経営や学びの楽しさ、学問や生きることの深い本質に気づかせることができる教科・領域の高度な指導力・専門性が問われます。

そして何よりも教育に関わる人間的な総合力と見識・洞察力、生きた実践的な力量（臨床性）の在り方（人間教育と実学の実践化）が、不断の理論と実践の真の往還として「学び続ける教員像」として求められています。

(4) 「2030年以降の社会の変化に対応した時代」に求められる教員像、資質・能力

わたしたちはこれまでも、子どもたちの未来につながる生きる資質・能力を、「人間教育と実学」に関わる深い理解と実践的指導力を備えた学生を育てることを目標としてきました。

これまでの歴史と伝統、蓄積を継承しながらも、大きな時代の転換にあるこの時期、例えば「2030年以降の予測のつかない社会の変化に対応した時代を生きる子どもたち」（第3期教育振興基本計画）2018年6月）をたくましく育てるために、大学での授業や教員養成で求められていることは何かを改めて検討し、学生の学びの姿として具体的に問うていく必要があります。

(5) 「解（こたえ）のない複雑な時代」に、自分らしい生き方を探究できる子どもたちを育てる

教職課程の組織的な対応、大学教員の不断の研修（教職FD）や授業改善、学生の到達度・満足度調査等を通じて、これからの教員養成に求められている資質・能力、専門性、実践的力量等を正しく見極めて整理し、自分らしい生き方を探究できる子どもたちを育てることができる教員養成が求められています。

さらに、生きることに課題を持っているような子どもたちには生きる勇気と誇りや学びの楽しさを教えることができること、意欲高い子どもには失敗や挫折を恐れず挑戦する強さ、やり抜く力、自分自身を見失わない自己調節能力等（非認知スキル）を身に付けること、そして地域と人々、社会に貢献できることを自分の喜びと思えるような学生を育てる必要があります。